

# 学級活動(2)指導案

5年2組32名 指導者 高島 芳倫

本実践は、以下の検証を行うものである。

- 現在の食習慣を振り返らせるとともに、日本と世界の食料事情の違いや開発途上国の実情を知らせることは、自分自身の問題点に気付かせたり、望ましい食習慣を形成したりする上での自己決定を促したりすることに効果的であったか。

## 1 題材名 望ましい食習慣 ～「目標！残食ゼロ」は、はずかしい?!～ (学級活動(2)ーキ)

## 2 子どもの実態

題材に関わる子どもの実態は、次の通りである。

調査実施日：平成24年5月9日(水) 調査人数：32名(男子16名 女子16名)

- 1 食べ物を残したことがありますか(体調不良等の理由を除いて)。
  - ・はい・・・31名 ・いいえ・・・1名
- 2 どのような理由で残しましたか。
  - ・嫌いな食べ物だった・・・11名 ・自分にとって量が多すぎた・・・6名
  - ・食事の前にお菓子を食べ過ぎた・・・3名 ・だらだらと食べて時間が過ぎた・・・3名
  - ・味付けが自分の好みではなかった・・・2名 ・バイキングで取り過ぎた・・・2名
- 3 出された食べ物を残してはいけなと思いますか。
  - ・はい・・・26名 ・いいえ・・・2名 ・どちらとも言えない・・・4名
- 4 なぜ、残してはいけな(残してもよい)と思いますか。
  - ・食物や料理を作った人に悪い・・・14名 ・生き物の命をもらっている・・・4名
  - ・食べたくても食べられない人がいる・・・3名 ・お母さんや先生に叱られる・・・2名
  - ・食べないと死んでしまう・・・3名 ・食べ物のゴミが増える・・・2名
  - (量が多いときには残してもよい)・・・3名 (無理に食べるとお腹を壊す)・・・1名
- 5 毎日十分な食べ物や飲み水がある人々は、世界の何%だと思いますか。
  - ・3～10%・・・6名 ・11～50%・・・12名 51～70%・・・9名 ・71～90%・・・5名

本学級の子どもは、毎日の給食時間を友達と楽しみながら過ごしており、誕生日給食等の学校の取組により、ランチルームで他学年との交流給食も経験する等、充実した給食時間を過ごしてきている。

一方で、友達との会話に夢中になって給食を残してしまったり、食器に残菜が付いたまま食器を返却したりする様子も見られる。食べ物を残してはいけなということ、家庭や学校での指導から理解はしているものの、実際には残食についてあまり関心をもつことができていない。

## 3 題材について

現在、日本人の食生活は非常に豊かである。しかし、国内外では様々な食料問題が起こっており、今後大きく変化することが予想される。急速に進むグローバル化のなかで、これから生きる子どもたちが、今、どのような食習慣を身に付けておくべきかを考えることは、重要なことだと考える。

本題材は、普段の食生活を振り返る活動と十分な食料を得られず貧困に苦しんでいる国々が世界の約8割もあることに気付く学習を通して、日常意識していない自分の食習慣の問題点に気付かせ、それを解決するための方法を考え、実践する力を身に付けさせるものである。食習慣の形成期である学童期において、これまで深く考えることなかった日常の食事の在り方について考えさせることは、望ましい食習慣を形成する上で意義深いものではないかと考え、本題材を設定した。

## 4 指導に当たって

事前の活動では、子ども自身が実態に客観的に気付くことができるように、アンケート調査を行う。

本時の導入では、アンケート結果と、給食時間の様子や返却するときの食べ物が付いた食器等の写真を提示し、意識と現実とのずれを認識させ、一人一人に問題意識をもたせる。

次に、食べ物について日本と貧困に苦しむ国々との意識の違いに気付かせるために、日本と世界の食料事情や教師が取材してきた開発途上国の実情に関する資料を提示し、更に問題意識を高めた上で、アンケートを振り返らせながら具体的な内容での自己決定を行うことができるようにする。

事後の活動では、本時で自己決定を書いたカードにその後の取組状況を記入させ、自己指導能力

と自己効力感を高められるようにする。また、グループ反省会を設定し、改善状況や成果に喜びを感じられるようにすることで、望ましい食習慣を形成しようとする意識の向上を図る。

## 5 評価規準

- より望ましい食習慣を形成することに意欲をもち、自己決定したことを進んで実践しようとしている。 【集団活動や生活への関心・意欲・態度】
- 現在の実態と提示された資料から自分の食習慣の問題点に気づき、これまでの振り返りと友達の意見を踏まえて問題解決のための方法を考え、実践している。 【集団の一員としての思考・判断・実践】
- 日本と世界の食料事情や貧困に苦しむ開発途上国の実情と、望ましい食習慣の形成が自分自身にとっていかに重要なことであるかということを理解している。 【集団活動や生活についての知識・理解】

## 6 活動の流れ

	期日	活動内容	教師の手立て	めざす子どもの姿と評価方法
事前	5/9	自分が食べ物を残した経験と理由等をアンケート用紙に記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 率直な意見を書きやすい雰囲気をつくる。</li> <li>○ 家庭での食事も想起させ多様な意見を出させる。</li> </ul>	<p>関 食事を残した経験を中心に現在の食習慣を思い出し、質問に対して具体的な言葉で回答している。 (アンケート用紙)</p>
本時	5/18	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 アンケート結果と給食時の写真を見て、一人一人が問題意識をもつ。</li> <li>2 日本と世界の食料事情や開発途上国の実情を知り、感じたことを発表し合う。</li> <li>3 望ましい食習慣の形成のために、問題を解決する方法を考え、自己決定を行う。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アンケート結果から、子どもの意識と現実のずれに気付かせ、問題解決の必要感をもたせる。</li> <li>○ クイズをしたり写真を提示したりすることで、学習意欲を高め、理解しやすいようにする。</li> <li>○ アンケート結果を改めて振り返らせ、具体的な言葉を用いた自己決定ができるようにする。</li> </ul>	<p>思 アンケート結果や写真から、現在の食習慣の問題点に気づき、問題を解決するという必要感をもつことができる。 (発言)</p> <p>知 提示された資料の内容を理解し、望ましい食習慣の形成の重要性を理解している。 (発言)</p> <p>思 自分の現在の問題点に気づき、望ましい食習慣を身に付けるための問題解決の方法を考え、自己決定している。 (観察・ノート)</p>
事後	5/21～	自己決定した事を実践し、反省会を行いながら食習慣を改善していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己決定を実践できている子どもを称賛しながら、実践記録カードを活用した指導を継続する。</li> </ul>	<p>思 自己決定したことを実践し、反省を記録しながら、望ましい食習慣の形成をめざしている。 (行動観察、実践記録カード)</p>

## 7 本時の活動

### (1) 目標

食習慣についての現在の実態と日本と世界の食料事情や開発途上国の実情を理解させることで、自らの問題点に気づき、望ましい食習慣を形成するための方法を考えることができるようにする。

### (2) 評価規準

- 現在の実態と提示された資料から自分の食習慣の問題点に気づき、友達の意見も踏まえて問題を解決するための方法を考え、自己決定をしている。 【集団の一員としての思考・判断・実践】

### (3) 指導に当たって

指導に当たっては、まず、偏食や残食の具体的な実態を子どもとの対話から引き出す。さらに、アンケートの結果と食事中に望ましくない姿勢や食器等の残食の写真を提示することで、子ども自ら現在の食習慣の現状とその問題点に気付くことができるようにする。

次に、子ども一人一人に問題意識と解決することへの必要性を感じさせるために、3つの視点に分

けて、日本と世界の食料事情や開発途上国の実情を知らせる。その際、アンケート結果にから認識と現実のずれに気付かせたり、貧困に苦しむ国々の子どもの生活と食習慣が分かる短編映像を見せたりすることで、自分の問題として捉えやすいようにする。

自己決定をさせる際にもアンケートを活用することで、食習慣の改善に向けた具体的な方法を考えた決定を促すことで、事後の実践記録カードでの振り返りを実感のあるものにできるようにする。

#### (4) 本時の展開

時間	活動内容	予想される子どもの意識	○手立て □めざす子どもの姿
7	<p><b>振り返る</b></p> <p>1 偏食や残食を中心とした普段の食習慣について思い出す。</p> <p>2 アンケートの結果と給食時間の写真を見て問題意識をもつ。</p> <p>3 本時のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とにかく魚が嫌いだな。</li> <li>・給食では食べるけど、家では残すことがあるよ。</li> <li>・残してしまう理由は、いろいろ違うんだね。</li> <li>・姿勢が悪いのもいけないね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 偏食や残食の具体的な実態を子どもの発言から多く引き出すために、対話形式で進めるようにする。</li> <li>○ アンケート結果は、回答した理由を子どもに具体的に尋ねることで、共通理解を図っていく。</li> <li>○ 食事望ましくない姿勢や食器等の残食の写真を提示し、自分の現在の問題点に気付かせる。</li> <li>○ 学習意欲をもたせるために、なぜ自分の食習慣と世界や日本の生活の違い等が関係あるのかを予想させる。</li> </ul>
	<p>世界と日本の生活の違いや食料事情を知って、「望ましい食習慣」について考えよう。</p>		
	<p><b>必要性</b></p> <p>4 日本と世界の食料事情や開発途上国の実情を理解する。</p> <p>(1) 世界で貧困に苦しむ国の割合</p> <p>(2) 日本産の食料だけによる献立</p> <p>(3) 開発途上国の子どもたちの生活と実情</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「開発途上国」って初めて聞いた。どんな国のことかな。</li> <li>・世界人口の8割だなんて、自分の予想と全然違ったな。</li> <li>・日本産の食料だけだと、一日分は、たったこれだけなの。</li> <li>・何となく分かってはいたけど、実際に知って、ショックだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 開発途上国とはどのような国のことか、分布図を提示しながら説明する。</li> <li>○ アンケートの結果に一度戻ることによって、認識のずれに気付かせる。</li> <li>○ 一般的なものと国産品だけによる献立の例を比較させ、外国にかなり依存している日本の現状に気付かせる。</li> <li>○ 貧困に苦しむ国々の子どもの生活と食習慣が分かる短編映像を見せ、自分の問題として捉えやすいようにする。</li> </ul>
5	<p><b>解決法</b></p> <p>5 日本と世界の食料事情や開発途上国の実情を知った感想を出し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何も言えない感じです。</li> <li>・日本で暮らすわたしたちは、とても贅沢だと思った。</li> <li>・生きるために食べるんだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 挙手による発表にこだわらないことで、率直な感想を引き出す。</li> <li>○ 副題材名に注目させ、自分たちの食習慣について、より深く考えさせる。</li> </ul>
8	<p>6 望ましい食習慣を形成するための自己決定をして、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・残食は絶対にしない。</li> <li>・偏食をせず、家でも食べる。</li> <li>・世界の事も考えて、米一粒も残さない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アンケート結果を活用し、できるだけ具体的な内容の決定を促す。</li> <li>☑ 本時の学びと友達の意見から問題解決のための方法を考え、自己決定をしている。 (実践記録カード)</li> </ul>
5	<p>7 活動を通じた感想を交流し、事後の活動の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「残さずに食べる」ことの大切さが分かりました。</li> <li>・きちんと実践するぞ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実践記録カードの今後の活用法を説明することで、自己決定を実践に生かそうとする意欲をもたせる。</li> </ul>

残したことがない子どもに、その理由を述べさせたい。

日本に生まれて幸運であるという意識だけはもたせたくない。  
残したことがない子どもに、その理由を述べさせたい。

平成17年に制定された「食育基本法」では、「食」と「育」の目的をそれぞれ、「生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの」、「様々な経験を通じて食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること」と位置付けている。

- 国際化は急速に進み、世界での食糧問題も緊迫してきている
- 世界の食糧事情
- 外国に依存 日本の食料の多くは開発途上国を含む外国に頼っているということを知る
- 真剣に考え、自分で設定して行動しようとする意欲を高めさせたい。
- 更に、教師自身が
- 望ましい食習慣の形成を図るとともに、食事を通して好ましい人間関係の育成を図る

その変化に対応し豊かな人間性を育むことができるように、

その原因として、食べ物を残さないことを自分自身で納得している訳ではなく外的な要因によってのみそれを強いられてきたということが分かっているため、

論点が分かりやすいように視覚的に工夫した本時の板書は、集団決定を促すものとして効果的であったか。

司会者グループを含めた全ての子どもが常に板書を確認できる座席の配置は、話し合うのなかでの折り合いや合意形成をする上で効果的であったか。